

平成26年度 附属学校園存続のための特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	小中一貫によるインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進
事業実施代表者名	附属札幌小 副校長 紺野 高裕
実施附属学校名	附属札幌小・中学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>多くの小中学校において、広汎性発達障害をはじめ高機能自閉症、ADHD症候群、アスペルガー症候群等の発達障害のある児童生徒が増えてきており、その指導の在り方や様々な対応に苦慮している学校が年々増加している。コミュニケーションが苦手なことや他者の心情を察することが十分にできないことに起因し、良好な人間関係を築くことができず、いじめやトラブルに発展する例も多くなっている。</p> <p>一方、昨年文部科学省では「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」について公表したところである。このような状況の下、公立学校では、インクルーシブ教育システムのモデルとなる先進的な研究と実践を求めている。</p> <p>本校においても教育的なニーズのある発達障害の診断を受けている児童や困り感を抱えている子どもが在籍しており、適切な支援や配慮が求められている状況がある。</p> <p>そこで、当該児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や教育相談の在り方、通常学級と特別支援学級の交流教育の在り方について小中一貫モデルプランを作成するため、本事業を実施することにした。</p> <p>具体的には、以下の内容について取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①通常学級在籍の教育的ニーズのある児童生徒の実態把握。 ②個別指導及び少人数指導、教育相談体制及び施設の整備。 ③通常学級と特別支援学級の交流教育実施計画の策定と実施。 ④小学校での教科学習、中学校での学校行事における交流教育の実施と検証。 ⑤実施後の評価と改善策の立案。 ⑥先進的な取組についての調査研究の実施。
成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)	<p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> ①通常学級在籍の教育的ニーズのある児童生徒の実態把握。 →学級担任へのアンケート調査及び授業参観を実施し、当該児童の状況を把握しコーディネーターが窓口となり資料を作成し実態把握ができた。また、子ども交流会を設け教職員が共通理解することができた。 ②個別指導及び少人数指導、教育相談体制及び施設の整備。 →非常勤講師及び担任外教員と担任との連携によるTT授業、個別指導を実施し、教育相談室の活用を進めたことにより、きめ細やかな個別指導及び教育的な支援をすることができた。また、悩みを抱えている児童や保護者には、スクールカウンセラーや大学教員への相談を働きかけ相談できた。 ③通常学級と特別支援学級の交流教育実施計画の策定と実施。 →年度始めと学期毎に打合せを実施し、交流計画及び共同学習実施を計画し、具体的な実践を円滑に進めることができた。 ④小中学校での教科学習及び学校行事における交流教育の実施と検証。 →小中それぞれに実践・検証を進めた。小学校では昨年の実践に改善を加えて研究大会で共同学習の公開（理科・図工）することができ、中学校では理科の野外巡検や動物園での学習の他、宿泊

	<p>行事、藤華際を共に実践できた。</p> <p>⑤実施後の評価と改善策の立案。 →小中それぞれに学校評価の中で協議し、新年度計画に改善策を盛り込み、通常学級と特別支援学級相互の立場から、児童生徒にとってよりよい学びにつなげる交流の在り方について共通理解した。</p> <p>⑥先進的な取組についての調査研究の実施。 →小・中・ふじのめ学級それぞれの代表が共にUD研究会を(筑波大附属小)視察しインクルーシブ教育実践の参考とすることができた。また、小中学校(通常)の教員が特別支援学級に出向いて授業(小学音楽、中学体育・社会・国語等)するなど、新たな実践に取り組むことができた。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、教務部にインクルーシブ教育の担当部署を置き通常学級と特別支援学級の交流・連携を推進していくことにした。その中で新たに共同学習が可能な活動を探り、各学年で検討し実践化していく。 ・研究紀要等で広く発信すると共に大学教員等の専門家の意見を参考にして改善へとつなげていく。 ・スクールカウンセラーとの連携を一層強化し教育相談の充実のため保護者や児童のニーズに合う相談活動を推進する。 <p>中学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任(体育・音楽等)が特別支援学級に出向いて授業する機会をさらに拡大させていく。 ・宿泊学習や学校祭などの行事、理科の野外巡検以外の共同学習の可能性を見出し実践の進化を図る。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も小中ふじのめの合同研修会の場をとり、インクルーシブ教育やユニバーサルデザインの授業について各教員の共通理解を図ると共にこれまでの実践をふり返し、一層の改善を図っていく。
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>小学校、中学校、ふじのめ学級それぞれの研究大会において発表。</p> <p>小学校研究紀要に掲載。</p> <p>附属札幌小・中学校のHP</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。